



令和4年2月

志(こころざし)

(日本中の中小企業を元気にし、その社員と家族を幸せにする)

今年の1月11日より創業40年目に入りました。経営計画発表会は30回目になります。今年より使命感(き)を少し変えました。以前は「日本中の中小企業を元気にする」でしたが、私達の想いが少しだけでは正しく社員に伝わるかと思ひ、「社員と家族を幸せにする」という言葉をつけ加えました。私達は「人を大切にする経営計画書」を日本中に広め、中小企業で働く社員と家族を幸せにすることを使命感(志)として経営してきました。なぜ経営者は経営計画書を作るのが? その目的は、社員と家族に対して会社を取りまく全ての人々(ステークホルダー)を幸せにするためです。この目的を達成するために、経営計画書は会社を持続的に成長させてくれる道具です。目的は社員と家族の幸せ、それによって会社の成長、会社の成長なくして目的は達成出来ない。

去年の12月18日(土曜日)にお客様の第29回 経営計画発表会がありました。そのときに、第1回目の発表会の招待客のリストも配られました。今回その時に出席したメンバーが、私を含めて出席(てい)たのは、約30名中、3人位だと記憶(きおく)っています。中小企業家同友会の経営者仲間で勉強会を始め、経営計画書を作り、経営計画発表会をやり、メンバー全員で応援(おひょう)に行こう! ということで応援団(おひょうだん)として出席しました。勉強会の仲間は、15人位だと思ひますが、今でも続いているのは、私も含めて3社のみです。他の会社は倒産(とうさん)したり、縮小(しゆく)したり、後継者が続かないままでいた。私は創業して40年間、3,000社以上の中小企業を見てきて、生き残っている会社、潰れた会社、そしてごく少數の成長会社の違いはどこにあるのかと考えると、まだ多くの会社が潰れました。創業当初(とうじょう)からたのは、メリヤス業、印刷業、自動車整備業、アパレル業等ですが、ほとんどの会社が潰れていたり、縮小(しゆく)したり、よくて現状維持(けんじょうゐじ)です。私の知(し)っている限り、成長し続けているのは自動車整備業の笠木自工(株)さん他数社です。何故(なぜ)潰れたのか、その理由の一つは、時代の変化に適応(てきおう)できなかったからです。当時(とうじょう)の売上、利益が出ていたのは、差別化された商品・サービスだったのが、時代とともにライバルが増え、商品自体の価値が減少しているのに、新しい商品・サービスの開発や市場の開拓(かいたく)ができなかつたことです。もう一つは、財務体質(ざいむたいしつ)が悪かつたことです。自己資本比率(じせいししりつ)が低く、資産もなく、お金もない限界企業は、市場が縮小すると一番先に潰れます。本業がダメになると、工場や倉庫(そうく)にビルやマンションを建てて本業の赤字をカバーしている会社もあります。これも正しい戦略(せんりやく)です。

古田土会計グループは、昭和58年1月11日、江東区南砂の印刷会社から机(いのち)1台借り、電話番号(電話番号)をお願いし、家賃3万円、顧客(くきゃく)料3万円を支(さ)払つた1人でスタートしました。飯島社長の計画(けいかく)だと今年は400名を超えるます。このように創業当初(とうじょう)思(おも)つた規模(くぼく)にならなかったのは、志(こころざし)と経営計画書のおかげだと思ひます。「志」を実現(じつじん)するために、秋稼(あきか)稼(か)げ申告(しんこつ)だけでなく、古田土式(こでんとしき)月次決算書(げっさくしょ)、経営計画書(けいぎょうけいがしょ)、社長(しゃじょう)の成績表(せいじめい)等の商品(うぶん)を開発(かいはつ)しました。その想(おも)いは「中小企業で働いてくれている社員と家族を幸せにする」(すこひ)という使命(きみせい)です。自分は不器用(ふきぎよう)で何にも社会(しわい)に役(やく)に立てないけど、会計事務所(かいけいじむしょ)が「社会貢献(かわいこうげん)できるのではないか」と考(かんが)みました。エッコツツメー途(と)は、この40年間(じまん)やってきました。今こそ私達(わたし)の「月次決算書(げっさくしょ)」と「経営計画書(けいぎょうけいがしょ)」が世(よの)の中(なか)に必要(ひつひやう)だと実感(じつかん)しています。私はますます「志」を実現(じつじん)するのに日本中に経営計画書を広めます。私達より大きい会計事務所(かいけいじむしょ)はいくつあります。私は会社(かいしゃ)は売上(ばいじょう)、利益(りせき)、社員数(しゃいんすう)ではなく、働いてくれている社員が幸せだと感じ(ひき)ているか、自分達(わたし)の会社(かいしゃ)が何(なん)がよくないか、という業績(ぎょうせき)中心(ちゅうしん)主義(しゆぎ)ではなく、障害(しようがい)者雇用(しゃぎゅうよう)、因(いん)つている人達(ひとだつ)への寄付(きふ)等の社会貢献(かわいこうげん)を判断(はんぱん)す(へ)まつだ」と思(おも)り、社員第一主義(しゃいんだいいしゅぎ)障害(しようがい)者雇用(しゃぎゅうよう)、障害(しようがい)者施設(せしせつ)や子供食堂(しこうしょうどう)等の寄付(きふ)、経常利益(けいじょうりせき)の2%を貯(貯)蓄(ちょぞく)を続けています。これは経営計画書(けいぎょうけいがしょ)に経営方針(けいぎょうほうしん)として明文化(めいぶつぶつ)しています。人を大切(だいせつ)にする「よい社風(しゃふう)」になりつつあるのは、経営計画書(けいぎょうけいがしょ)の方針(ほうしん)があつたが、です。そこでこの方針(ほうしん)を信じて実施(じつしう)していく社員がいるが、です。

お客様の相談(あんたん)待(ま)っています。

古田土 满